

一内水研通信一

第 20 号

平成 3 1 年 2 月

千葉県水産総合研究センター
内水面水産研究所
〒285-0866 佐倉市白井台 1390
TEL 043-461-2288
千葉県農林水産技術会議

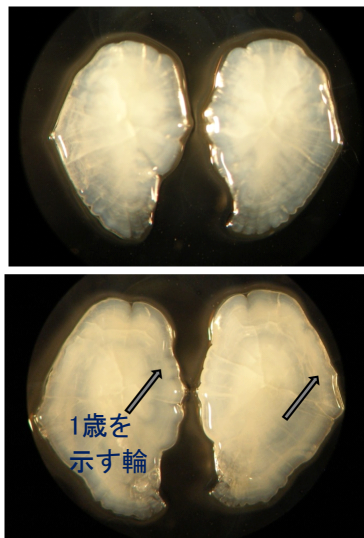
今年もワカサギの卵放流が始まります

ワカサギといえば、穴釣りが冬の風物詩として有名ですが、本県では穴釣りはできないものの、漁業や遊漁の対象として重要な魚です。

国内の自然分布域は、利根川と島根県以北の本州及び北海道であり、1年で成熟し産卵後はほとんどの魚が死んでしまいますが、中には2、3年生きる魚もいます。年齢は耳石と呼ばれる組織で調べます。



0歳魚と1歳魚（印旛沼）



0歳(上)と1歳(下)の耳石



ふ化器

県内の内水面漁業協同組合では、ワカサギの増殖のため、3月から5月にかけて、年間1億5千万粒（2008～2017年度平均）ものワカサギの卵の放流を行ってきました。今年も高滝湖，亀山湖，笹川湖及び印旛沼において放流を行う予定です。

放流方法には2通りあり、「ふ化器」と呼ばれる筒に卵を入れ、筒の中でふ化させる方法と卵には粘着性があるためシュロの皮に付着させ、シュロの皮を張った木枠を湖面に浮かべてふ化させる方法があります。

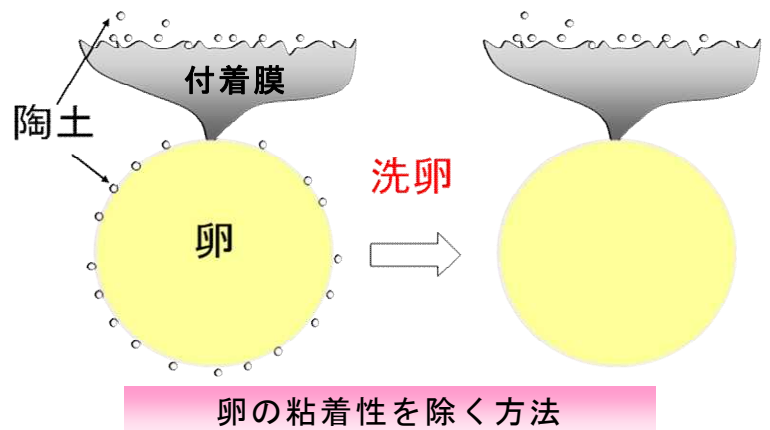
利根川を遡上するワカサギ

ワカサギは、もともとはサケと同じように、産卵のため川を上る魚です。産卵期は1月～5月で北方ほど遅くなる傾向があり、利根川にワカサギが遡上するのは、1月～3月です。この時期のワカサギは、体長が9cm～11cmと大きく、似た種類のチカ*と間違えられることがあります。

*チカもワカサギと同じキュウリウオ属ワカサギ科の魚です。国内では、北海道沿岸，陸奥湾，三陸海岸などに分布しており、利根川には生息していません。

ところで、ワカサギの卵はふ化器の中で付着しないのでしょうか？

右の図は、ワカサギの卵を拡大した図です。ワカサギの卵には、付着膜があり、この膜で他のものに付きます。そこで、陶器の原料である陶土を付着膜に付けることによって、他には付かないようにします。その後、卵の周りに付いた陶土を洗い流してから、ふ化器に入れます。



自県産卵の確保を目指して

放流に使用するワカサギ卵は、全て他県に依存しており、安定的な放流には、自県での卵の確保が課題です。養老川漁業協同組合では、（一社）日本釣用品工業会の支援を受け、地元の観光企業組合とともに平成31年3月から高滝湖のワカサギを親魚として利用する取り組みを始めます。

親魚の成熟具合には個体差があるため、1度に多くの成熟魚を採捕することが重要です。採捕した親魚から受精率の高い卵を得るため、人が卵を絞る人工採卵ではなく、自然に産ませる採卵方法で行います。当所としても成功するよう指導していきたいと思えます。



自然産卵のため水槽に入れたワカサギ

第23回ワカサギに学ぶ会を開催

平成30年11月29日に千葉市でワカサギに学ぶ会を開催しました。本会では、ワカサギの生態や増殖方法、資源や漁業など多岐なテーマにわたり、研究発表などを行っております。当日は7題の発表があり、研究者、漁業者、遊漁関係者など90名を超える方々が参加されました。

最近、ワカサギ釣りは、老若男女が楽しめる冬の釣りとして人気を博しています。あらためて、ワカサギに対する関心の高さを感じた会議でした。



熱心に耳を傾ける参加者